

第1学年保健体育科学習指導案

日 時 平成23年9月30日(金) 5校時
学 級 1年1, 2組 女子34名
会 場 南城中学校校庭
授業者 藤井 佳子

1 単元

球技 (ハンドボール)

2 単元について

(1) 教材観

ハンドボールは、パスやドリブルを使ってボールを相手ゴールへ進める中で、敵・味方が入り乱れて得点を競い合う集団的スポーツである。チーム全員が協力し合い集団技能を駆使し、チームが一つとなって得点することに楽しさがある。

学習の中で、個人技能を高める活動をすることで、走・跳・投のすべての運動の基本や、ボディバランスを身につけることができる。また、チームの持ち味を生かした攻撃や防御ができるように意見を出し合い、互いに教え合い、助け合って活動することや、ゲームを通じて、思考力・判断力・表現力を身につけたり、ルールやマナーを守ることや他との関わり方を身につけることができる。

(2) 生徒観

本学級の生徒は、運動への意欲があまり高いとはいえない。

年度初めのアンケートの結果では、体育が嫌い、どちらかという嫌いと答えた生徒が12名もいて、その理由は苦手意識によるものであった。授業の場面でもそれが現れていて、数人の活発な生徒の陰に隠れるようにして意欲の感じられない生徒が目につく。

また、新体力テストの学年平均の結果を見ると合計得点ではほぼ全国平均レベルである。筋力、柔軟性はかなり高く、逆に敏捷性、全身持久力、巧緻性に劣るという結果が出ている。総合評価の分布状況は下位の生徒が少なく比較的課題を絞りやすいと思われる。

生徒の社会性に目を向けると、最近の傾向として生徒同士の関わり方がわからない、教師を介して関わろうとするといった様子が見られ、生徒間の関わりが希薄になってきている感じが感じられるが、本学級の生徒もその傾向があり、積極的に仲間との繋がりを確かめながら活動することができないでいる。

(3) 指導観

意欲の喚起のためには、全生徒が初めて触れるハンドボールという単元なので、全員が1からのスタートということで、比較的苦手意識を感じない初期段階でハンドボールの醍醐味であるシュートを決める爽快感を味あわせることで楽しさを感じさせたい。また、一部の生徒がボールを支配し、ゲームが進むことなく、できるだけ多くの生徒がボールに触れることでゲームに参加する楽しさを感じるためのルールの工夫が必要である。

体力面では、本学級生徒の体力的課題である敏捷性・全身持久力・巧緻性・巧緻性を養う必要があるが、本単元でこれらの体力要素を培うことができることを理解させ、積極的に楽しみながら活動することで、体力を身につけさせたい。

学習は、ゲームを中心にし、内容分析をし、チームの課題を持ち、戦力を高めるための練習方法や戦術を練ること、自分が気づいたことを仲間にアドバイスすることで、思考力・判断力・表現力を身につけさせたい。

チームの中で役割を持ち責任を持ってそれを果たすことで、喜びを感じ自信を持って自分を出すことができるようにすること、仲間と一緒に話し合ったり練習したりする中から、他者との関係作りができるようすることもねらいたい。

3 単元の目標・指導計画・評価基準

(1) 目標

- ・基本的な知識や技能を身につけ、それを活用して学習課題への取り組みを工夫する力を身につけさせる。

E (1) ア (2) (3)

(2) 指導計画と評価基準

時間	学習活動	評価基準			
		関心・意欲・態度	思考・判断	技能	知識・理解
1	・試しのゲームを行う	・学習に意欲的に取り組んでいる。 ・ハンドボールの特性に関心を持ち、楽しさや喜びが味わえるように取り組んでいる。			・ハンドボールの特性を理解できる。
2 ～ 4 (4本時)	・個人技能を高める練習を行う。	・自己の役割を果たし、積極的に協力して取り組んでいる。 ・施設、用具の安全を確かめ、危険なプレーをしないで活動している。	・自己の課題を明らかにして、解決方法を選択できる。	・練習を通じて個人技能を高めることができる。 ・今持っている技能を発揮してゲームを行うことができる。	・技術の構造、練習方法を理解できる。 ・ゲームのルールを理解できる。
5 ～ 9	・チームの課題学習とゲームを行う。	・ルールを守り、審判の判定や指示に従い、勝敗に対して公正な態度を取っている。 ・進んでゲームの運営をする。	・自己やチームの課題を明らかにし、課題解決の方法を選択できる。 ・ルールの工夫ができる。	・練習やゲームを通じて、個人技能や集団技能を高めることができる。	・ゲームの運営やルールを理解できる。
10	・学習のまとめをする		・学習の成果を見つけている。		

4 本時の指導

(1) 目標

- ・ディフェンスをのいない位置でシュートをすることができる

(2) 評価基準

評価場面	具体の評価基準		努力を要する (C) 生徒への手立て
	十分に満足できる (A)	おおむね満足できる (B)	
<ul style="list-style-type: none"> ・課題解決のために練習する。 ・練習の成果を確認するゲームを行う。 ・チームの課題を見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ディフェンスのいない位置に走り込んで正確なシュートをすることができる。 ・互いに助言しながら、協力し合い練習している。 ・相手チームに応じてポジションを考えて、練習を活かしたゲームができる。 ・積極的に話し合いに参加し、課題を見つけることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ディフェンスのいない位置でシュートをすることができる。 ・協力し合い練習している。 ・積極的にシュートをねらうことができる。 ・仲間の考えを理解し、自分の意見をもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料、教科書でポイントを確認させる。理解できない部分を説明する。 ・走り込む位置を助言する。 ・自分の役割を意識させる ・課題を見つけるポイントを助言する。

(3) 展開

段階	学習活動	指導上の留意点 (教師の指導○ 評価◎)
導入 15分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の準備 (用具) をする ・ 挨拶、健康観察をする ・ ランニング、準備運動、補強運動をする。 ・ 学習課題の確認をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ◎協力して準備しているか。 ○爪は長くないかチェックする。 ○リーダーを中心に声を掛け合って運動を行わせる。 効果のある運動になるよう助言する。
展開 30分	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin-bottom: 10px;"> ディフェンスのいない位置でシュートをねらおう </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 選択した方法でシュート練習をする <ul style="list-style-type: none"> ア) ディフェンスの上からロングシュート イ) カットインからのシュート (1対1) ウ) カットインからのシュート (2対1) ・ 練習した技能を活かしてゲームを楽しむ。 6対6 	<p>☆【思考力・判断力・表現力等の育成を図る指導過程】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分たちの課題に応じた練習方法を選択させる。 ◎協力しあい練習しているか。 ◎ディフェンスを避けてシュートしているか。 ○ディフェンスとの間合いを考えさせる。 ○パスを出す位置を考えさせる。 ○練習したことを意識して出せるよう助言する。 ◎練習したことがゲームに活かされているか。 ○ゲームの運営で自分の役割を果たすようにさせる。 審判、タイムキーパー、ボール拾い、得点係 ゲームの記録
終末 5分	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取り組みの反省と課題の話し合いをし、発表する。 ・ 整理運動、挨拶をする。 	<p>☆【思考力・判断力・表現力等の育成を図る指導過程】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ゲームの記録を話し合いに活かし、課題を見つけさせる。 ◎積極的に話し合いに参加し、自分の考えを発表しているか。